

## 予告 研究所公開セミナー

2月3日(土) 伊那市 12時開場  
会場：長野県伊那合同庁舎5階講堂

2月17日(土) 大町市 12時開場  
会場：サン・アルプス大町2階大会議室

今話題の外来生物の現状や課題などを中心に、県内の自然環境保全のための最新情報をお伝えします。お気軽にご参加ください。

## 珍客萬来

飯綱庁舎にお越しになるお客様は年間3~4千人。今年も多くのお客様に施設を見学してもらいました。とくに夏には、長野市内の小学生が高原学校で敷地の森を散策することが多く、今年は合計で13小学校1204名を受け入れました。また、土日も開館する夏休み期間中(7/22~8/18)の来所者は782名にのぼりました。多くの方は、バスや自動車を利用されますが、時には自転車で来られる方も(写真)。そのうち、市内から走って来られる方も出現するかもしれません。

一方で、庁舎が山の中ですので、思わぬ野生動物が現れることもあります。以下、これまで、に現れた動物一覧です。つぎにどんなお客様が現れるのか、密かな楽しみとなっております。皆様の御来所をスタッフ一同お待ちしております。

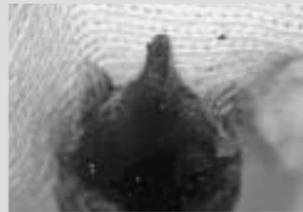
1. モリアオガエル
2. アズマヒキガエル
3. ヒメヒミズ
4. アオダイショウ
5. ガムシ、クワガタ、ハチ類の昆虫類は常連さん (SK)



2006年8月5日、長野市に滞在中のMr Grant from Colorado State, USA.



アズマヒキガエル  
2004年5月14日に研究所の片隅で埃まみれで発見された



ヒメヒミズ:2003年2月に所内で発見された(その後、弱っていたために介護の甲斐なく翌日死亡)



よもくまんの  
ふるさと 作。よも

♪ うさぎ おんいし  
かの山〜♪

くくま  
痛いよ

①

♪ こぶなつ〜りし  
かの川〜♪

②

①はちや  
ちがや

正しいのは

待てい

③

どっちにし? つかまえろ 食べちゃんだから  
同じだよ

④

## 編集後記

飯綱高原もいよいよ雪の季節。木々が葉を落とすと、昔と変わらない里山の起伏がみえてきます。この数十年間に里山が変貌したのは確かですが、変貌前の里山の様子を知る人は高齢になりつつあります。昔の確かな記憶や知恵と、里山の新たな利用を目指す若い人たちの創意工夫をどうつなげてゆくか、そこが一番の押え所のように思われます。(富樫 均)



この印刷物は、大豆油インクおよび古紙配合率100%再生紙を使用しています。

# みどりのこえ

冬号  
2006

No.33

## 長野県環境保全研究所

平成18年(2006年)12月8日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929  
●安茂里庁舎 〒380-0944長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415  
URL: <http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen> Email: [kanken-shizen@pref.nagano.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.jp)



中央アルプス千畳敷における調査

## 山岳科学の創造

文・写真 鈴木 啓助(すずきけいすけ/信州大学山岳科学総合研究所長)

山岳地域は、陸上に残された数少ない貴重な自然資源であり、同時に、様々な負荷の影響を受けやすい脆弱な環境でもあります。高山から里地・里山にいたるこの環境系は、自然変動の影響はもとより人間の生活系との相互作用によって大きく変動している地域でもあります。

信州大学は、山岳環境の様々な要因による変化と人間の営みとの関係を総合的に探求する学問領域「山岳科学」を創造するのに最適な立地条件にあります。そこで、山の環境と人間とのかわりに関する総合的研究を推進する山岳科学総合研究所を2002年9月に設立しました。そして、これまでの組織と運営体制の弱点を克服し、信州大学の利点を最大限に活かすことが出来るように、2006年7月に研究所の再編が行われ実質化されました。

山岳科学総合研究所の基本理念は、今後100年間の近未来を見据えた、自然環境と人間活動との持続的な融合の方策を探るものであります。そのためには、環境問題の根幹をなす物質循環・動態や、地表変動・災害メカニズム、生物多様性・多種共存機構などを地球環境科学の視点からきめ細かく解析する

と同時に、こうした地球環境科学的分析が山岳地帯の麓に暮らす人々にどのように影響し、また人々はどのように山岳地帯と関わっていくことが望ましいのかについても森林、里山、都市部を通じた解析が必要であります。

山岳地域における環境問題として、地球温暖化による植相の変化、不安定な地盤への人間活動の拡大による災害の頻発化、里山の放置による生物多様性の激減など、46億年で形成されてきた環境の多様性・階層性・連関性が破壊されつつある事実を、21世紀初頭によく認識するようになりました。山岳科学総合研究所では、まず、今後100年間(21世紀)の人間を含む生命系の永続的な維持をめざして、大気・大地・生命の有機複合的な自然環境のダイナミズムを明らかにし、自然環境再生・保全・活用および防災を実践することのできる基盤資料を提供したいと考えています。山岳科学総合研究所の最終目標は、「人と環境との共生」の理を探るものであります。ひいては、信州大学の重点研究領域のひとつである「信州のフィールドを活かした、自然と人間との共生を追求する新たな学問領域『山岳科学』の創造」を推進することに結実すると考えます。

## Contents

【巻頭言】山岳科学の創造	1	地域マップって何?~長野県における風力発電施設建設計画への対応について~	8
【特集】信州の里山と里山研究	2	【こんなことやってるよ!】活動紹介「戸隠を知る会」	10
里山質問箱FAQ	3	【読書案内】ダーウィンの足跡を訪ねて	10
信州の里山と野生動物植物	4	【フィールドノートから】「ザゼンソウ研究からわかってきたこと」	11
里山と人の暮らし	5	お知らせと「よもくまん」	12
里山環境の保全のために	6		

# 信州の里山と里山研究

プロジェクトリーダー 富樫 均

環境保全研究所では、「里山における人と自然との豊かなつながり」の回復をめざし、2001年度から5年間にわたり、信州の里山の環境保全に関する研究プロジェクトを行ってきました。プロジェクトの目的は以下の3つです。

### 3つの目的

- 信州の里山が置かれている状況を調査し、その特徴をつかむこと
- 信州の里山のもつ魅力を掘り起こすこと
- 里山の環境保全のために何が問題で、どうすればいいのかを検討すること

里山は暮らしに密着した身近な自然ですが、ひとくちに「里山」といっても、その言葉が意味する内容は人や文献によりさまざまです(次頁の質問箱をご覧ください)。里山の環境に関わる問題は、野生生物の保護・保全から、農地や山林の荒廃、あるいは地域の変容に関する事など、自然環境ばかりでなく、歴史や文化、そして産業や暮らしなど、幅広い分野にまたがっています。しかも、それらが過去・現在・未来へと相互に密接に関わりあっている点が重要です。里山の環境保全は、特定の狭い分野でとらえてしまうと、出来事の相互関連を見失ったり、問題点がすりかわった議論になってしまったりする危険があります。そのため、プロジェクトでは地形地質や動植物生態、そして人文社会など、多分野のスタッフが計画段階から協力し、様々な視点を取り入れながら、総合的に調査研究をすすめてきました。

人の営みとそれに応じた自然の移り変わりがあり、両者が長い時間をかけて一定の調和を保ちながら、自ずから生み出されてきたのが里山の豊かな環境です。したがって歴史的な人の暮らしを考慮しない里山論議では、里山問題への展望は開けません。同様に、人間中心に偏り、自然や野生の生き物たちのシグナルに目を向けない論議でも里山の環境保全ははかれません。里山では、人の暮らしも自然もどちらも大事なのです。このプロジェクトをすすめるなかで、「里山の環境保全は、里山に暮らす人や里山に関わる多くの人の人たちの生き方の問題につながる」ということを念頭に置かずにはいられませんでした。ここでは私たちの里山研究の成果の要点を、わかりやすくご紹介したいと思います。

プロジェクトの詳しい内容については下記の報告書をご覧ください。

- 長野県自然保護研究所編(2003) 長野県自然保護研究所研究プロジェクト成果報告1「里山としての長野市浅川地域」158p.
- 長野県環境保全研究所編(2006) 長野県環境保全研究所研究プロジェクト成果報告5「信州の里山の特性把握と環境保全のために」167p.

下記のホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen/sizen/sato.htm>



信州の代表的な里山の風景(中条村)



プロジェクトの成果報告書



### Q 里山って何？

**A** 人による自然の利用と、土地本来の自然のさまざまな要素が、長い時間をかけて相互に影響しつくりだされた特徴的な環境がみられる地域や、あるいはそういう環境の跡を残す地域のこと。そこには田畑や山林、水路やため池、かつての草刈場など様々な環境が含まれます。

### Q どこからどこまでが里山か？

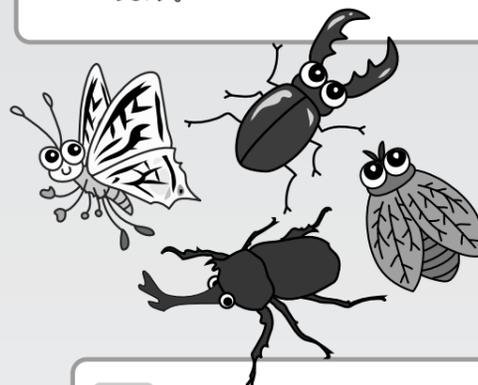
**A** 低平地から山間地までの広い範囲を含みます。人工物が多い都市中心域や、めったに人が入らない奥山を除いた地域が里山に相当します。長野県では県の全体面積の約8割は里山とみなされます。

### Q 里山の起源はいつから？

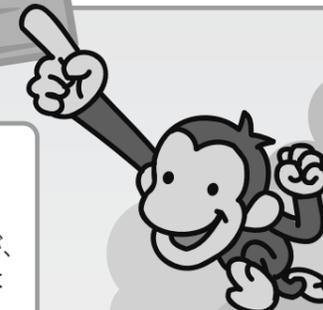
**A** 人が自然に手をいれた影響により、大きく環境が変わってきた証拠を過去にたどってゆくと、縄文時代にまでさかのぼることがわかりました。長野市飯綱高原における花粉化石の分析結果などによると、今から約3千年前の縄文時代後期から人の影響により原生林が少なくなっていき、里山が形成されてきたことがわかります。

### Q 里山は荒れている？

**A** 農林業を営む人の中では、田畑や山林の手入れが悪い状態を指して「荒れている」と言われることがあります。けれども、見方を変えると必ずしも荒れているとはいえない場合もあります。たとえば、人が入らなくなったまま自然の移り変わりがすすみ、むしろ豊かな自然林になっているところもあります。問題なのはかつての多様な里山環境がこれまで経験がないほどに、急激に変化しつつあるということです。



## 里山質問箱 FAQ



### Q 里山の危機とは？

**A** 第一は生物の多様性が失われる危機です。かつての農地や草原が、手入れされずに林に変化したところや、管理不足の植林地、あるいはコンクリートの水路になった小川などがたくさんあります。そういう環境の変化によって、身近に生息してきた野生の生き物たちが減っています。メダカのように、かつてはふつうにいたのに、今では絶滅が心配されるようになってしまった種類もたくさんあります。  
第二は、里山の文化や技術の継承の危機です。里山に住む人の生活が大きく変わったり、人口が減少したりすることで、地域の伝統文化や暮らしの知恵を次世代に伝えることが難しくなっています。

### Q 里山環境はなぜ大事なの？

**A** 里山は人と自然がともに築いてきたバランスのとれた生活空間であるからです。里山には長い歴史を通じて人々の安心と安全を支えてきた生活・自然環境があり、そこには地域独自の様々な歴史や文化が育ってきました。また、里山には、氷河時代の環境変化をのりこえてきた種を含む、多様な生き物たちが人の暮らしとともに生きてきました。

